

活動報告書

報告者氏名：川畑和彦 所属：宮崎県立清武せいりゅう支援学校 記録日：2014年2月27日

【対象生徒の情報】

○ 学年

高等部2年生男子1名

○ 障がい名

脳性麻痺 知的障がい 言語障がい

○ 障害と困難の内容

- ・ 気管切開をしており、発声が難しい。
- ・ 保護者や担任とは、自分なりのサインを使って簡単な会話をすることができるが、それ以外の人とは、単独では伝えたいことをうまく伝えることができない。時間がかかる。
- ・ ひらがなについての理解が不十分であり、読んだり書いたりすることが難しい。

【活動目的】

○ 当初のねらい

- ・ 人に伝えたいことを分かりやすく伝えることができる。
- ・ 担任や保護者がいなくても簡単なコミュニケーションをとることができる。

○ 実施期間

平成25年5月から平成25年12月まで

○ 実施者

齊藤 敬幸

○ 実施者と対象生徒の関係

学級担任

【活動内容と対象生徒の変化】

1 対象生徒（群）の事前の状況

コミュニケーション（会話）についての自信がない。声が小さく、発音も不明瞭であるため、身振りや自分なりのサインに頼りがちである。声を出すように指導すると萎縮してしまう。本人のサインを理解している母親や担任とは、サインを使って簡単な会話ができるものの、それ以外の人には伝えることが難しい。母親か担任の通訳が必要であり、当人同士が顔を見ながらのコミュニケーションにならない。サインについては、自分で作り出したものが多く、一般的な手話やサインを覚えることが難しい。絵カードや写真については、描いてあるものや写っているものを理解できているが、それらを複数並べて要求などを表現することが難しい。

2 活動の具体的内容

(1) 「DCell Voice」での取り組み

VOCA 的なアプリケーション「DCell Voice」を使って以下の活動を行った。



Dcell Voice

特徴

- 写真やイラストをボタンに設定することができる(字も書ける)
- 音声を簡単に録音し、ボタンに設定できる
- 目的に合わせてシートを作り分けることができる
- 170円と安い



ひざ上からずり落ちないように手作りの台を膝上に乗せ、その上に iPad を置いて使用する

① 日常生活の指導において

「今日の日付」、「今日の時間割」、「先生のお話」など朝の会の流れをボタンに順番に吹き込み、それを自分で押していくことで司会を行う。

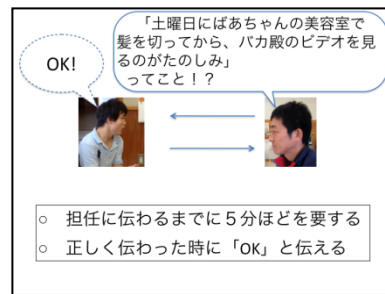
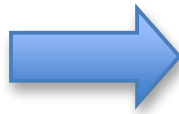
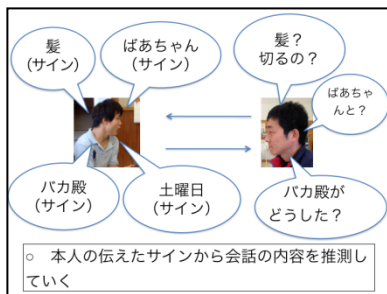
② VOCA 的な使い方

本人のサインを集めたシートをジャンルごとに分けて作る(人の名前、ものの名前、気持ちなど)。それをもとに保護者、担任以外の人とのコミュニケーションのきっかけとする。

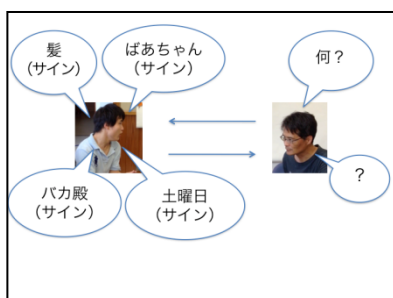
③ 「今日の話」を吹き込み会話する

本人は、同じ話をいろいろな人に伝えようとする意欲が高い。担任はサインを推測することで内容を理解することができるが、他の人では時間をかけてもサインが分からないために理解することができず、担任の通訳が必要である。

担任との会話



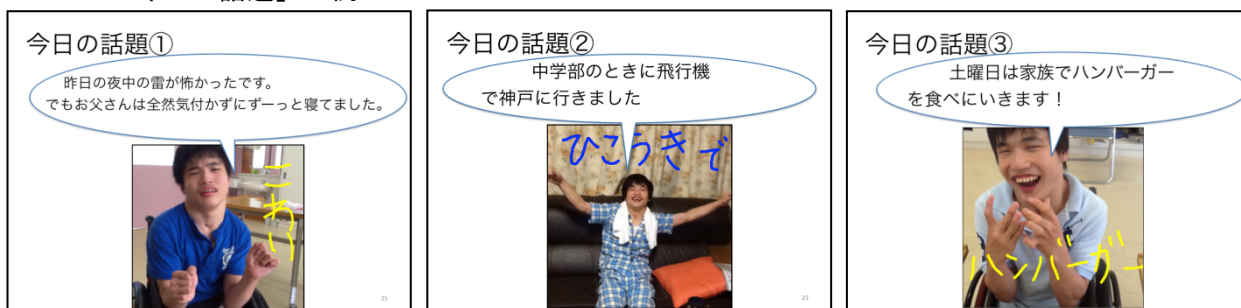
担任以外の人との会話



担任以外との会話で、「VOCA 的な使い方」で作ったものを使ってみたが、必要な単語を自分で選んで組み合わせて伝えるということの理解が難しかった。また、伝えたい話の内容が日によって大きく変わるということもあった。ある日は休日の昼食のメニューのことであったり、違う日には中学部の時に入院のために県外に飛行機で行った話、また別の日には来年のクラス配置や学級担任の予想など会話の幅が広い。それらに関する単語をすべて用意するのは膨大な量となってしまう、用意できたとしても本人が使いこなすことが困難である。

そこで、「今日の話題」のボタンというものを作り、そこに会話の内容をそのまま吹き込むことにした。iPad であれば録音時間を気にすることなく、会話の内容をすべて吹き込むことができる。そうすることで、ボタン一つで本人の話を知りやすく伝えられるようにした。本人が担任に自分の話を伝え、担任がその内容を iPad に吹き込むことで他の人とのコミュニケーションをスピーディーに楽しめるようにした。ボタンのイラストには、会話の内容を象徴する本人のサインの写真を使うようにした。そうすることで話す相手に本人のサインを理解しやすくなるようにした。

「今日の話題」の例



④ 家庭での使用

当初は家庭の希望で学校だけの iPad 活用であったが、「今日の話題」での本人の変容を見た保護者から家庭でも使いたいと要望があった。そこで、7月から毎日 iPad を家庭に持ち帰るようにし、家庭でのコミュニケーションに活用した。

(2) 「写真」の活用

本人が撮影した写真を見ながらやり取りをすることで、サインだけでは分からない情報を補償し、コミュニケーションをとりやすくした。



気になったものを写真に撮る



写真や動画でのメール

(3) 「メッセージ」(メール)の活用

学校や家庭で撮った写真を母親や担任にメールで送ることで、簡単なやりとりを行った。本人へのメールは、本人に語りかけている動画形式で送ることで内容を理解しやすいようにした。また、関係のある絵文字を添えることで本人の理解を助けた。

3 対象生徒の事後の変化

(1) 「DCell Voice」での取り組みについて

① 日常生活の指導において

これまでは朝の会の司会を教師と一緒にいき、横についた教師に代弁してもらっていたが、iPadを使うことで、一人で会を進行することができるようになった。他のクラスメイトにも分かりやすく伝えることができ、朝の会がスムーズに行えるようになった。また、「今月の歌」の曲をボタンに設定することで、これまで曲をCDでかけていた「ラジカセ係」もボタン一つで簡単にできるようになった。毎朝使っていくことで、本人がiPadの基本的な操作を覚えることができた。



② VOCA的な使い方について

- ・ 作業学習などで決められた活動が終わった後、ボタンを押すことで声の届かないところにいる教師を呼んだり、作業終了の報告をすることができた。
- ・ 普段本人と関わりが少ない教師に、iPadを見せながら「トイレ行く」「お茶を飲む」などの意思の疎通ができるようになった。
- ・ 月に2回行っているST(言語訓練)にiPadを持っていき担当の先生とのやり取りに生かした。これまで保護者が通訳として二人の間に入っていたが、これを使うことで本人とのサインでのコミュニケーションがスムーズになった。

③ 「今日の話題」

初めて「今日の話題」を設定した時は、本人がとても喜んでボタンを押していた。そして、自分からiPadを教室の外に持ち出し、すれ違う教師を呼び止めてはボタンを押してうれしそうに伝えていた。次の日から、担任とやりとりしたことを吹き込み、休み時間などに他のクラスに一人で行くようになった。担任がいなくても当人同士でのコミュニケーションがとれるようになった。話す相手にとっても、本人が話したいことの内容を一旦理解した上でのサインでのやりとりになるので、サインの意味を理解しやすく楽に本人との会話を楽しめるようになった。しだいに、自分から担任にiPadを手渡し、吹き込むように要求する場面も見られるようになった。吹き込まれた会話の内容もきちんと理解できているようで、担任が伝えたいこととずれた内容を吹き込むと、「違う」

ボタンを初めて作ったときの本人の様子(7月4日)

- 1 本人が担任に伝えた話題3つを3つのボタンに吹き込む
- 2 ボタンを押してとても喜ぶ
- 3 **自分からiPadをもって教室の外に出る**
- 4 人に近づきボタンを押す
- 5 相手に伝わったのを喜び、会話の内容のサインを示す
- 6 特に「お父さんが雷がなくても起きなかった」のボタンを繰り返し押す

というサインで伝え、やりとりをやり直すこともある。

「今日の話題」を作りためていくことで、本人の会話の引き出しを増やしていくことになり、本人のことを知らない相手ともかわりをもてるようになった。



金曜日の夏祭りの焼きそばと花火が楽しみです！



「今日の話題」を集めたシート

④ 家庭での使用について

今までは、本人と父親の会話に母親の通訳が必要だったが、「今日の話題」を利用することで二人での会話ができるようになった。アプリのマニュアルを作成し渡したところ、家庭でもボタンの作成に取り組んでくれた。本人のサインを撮影し、父親や母親の声で吹き込んでいた。「今日の話題」に関しても、ご飯を食べにいった話や、休日出かけたことの話などを吹き込んで持ってくることもあり、本人が学校でうれしそうにボタンを押していた。10月くらいには本人が家庭でiPadを触って遊んでいるうちに声を吹き込む方法を覚え、自分の声を吹き込むようになった。母親の話では「お母さん」「齊藤先生」「土曜日」などの単語を、自分が気に入るまで何度もやり直しながら吹き込んでいたとのこと。不明瞭ながらも本人なりの発音で吹き込むことができ、声を出そうとする意欲の向上につながった。



(2) 「写真での取り組みについて」

自分で写真を選んで見せたり、伝えたい部分を拡大したりするなど、分かりやすくやりとりができるようになった。授業の一場面や好きなものを発見したときには自分からiPadで撮影するようになった。

(3) 「メッセージ」での取り組みについて

動画で返信をしてもらうことで、文字の読めない本人にも会話の内容を理解することができた。送られてきた動画を何度も見ることで、楽しんで余暇を過ごせるようになった。はじめは、担任や保護者と一緒にメールの送信を行っていたが、iPadのiOS7へのアップデートによりアドレス帳の横に顔写真が入り、文字の読めない本人一人でも好きな人にメールを送ることができるようになった。土日などの休日には自分が撮った写真をいろいろな人に送って楽しんでいた。

メールありがとう！
焼き鳥おいしそうだね！
(おいしいのサイン)



本人への返信動画

(報告者の気付きとエビデンス)

(1) 主観的気付き

親や担任以外の人とのコミュニケーションが楽(スムーズ)になった。

確実に伝わる方法を得たことで自信をもてるようになった。

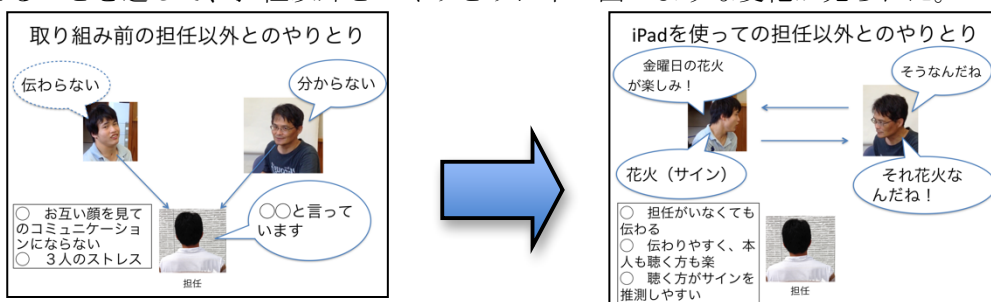
学校以外でのコミュニケーションを楽しめるようになった。

コミュニケーションについての自信が高まった。当初、担任の顔を見ながら他の人と会話をする状態から、iPadを使うことで、相手の顔を見て伝えられるようになった。うれしそうにiPadを持ち出し、一人で他のクラスに行き関わりをもてるようになってきている。また、確実に伝わる状況ができたことで安心してかかわりをもてるようになり、担任を呼んだり返事をするときの声が大きくなったりしてきている。学校以外での活用にも生かすことができた。

(2) エビデンス

① 担任以外の人とのやりとりの変化

Dcell Voiceでの「今日の話題」や、自分で撮影した写真を使ってコミュニケーションをとることを通して、担任以外とのやりとりに下の図のような変化が見られた。



② 本人と保護者の変容

	5、6月	7、8月	9、10月	11、12月
本人	・指示された通りにiPadを操作できる	・「今日の話題」での活用から自分でiPadを使うようになる ・iPadで余暇を過ごしなが、いろいろな操作を覚える	・自分から写真を撮るようになる ・自分からいろいろな人にかかわりをもとうとする ・メールに関心をもつようになる	・一人でメールができるようになり、楽しんでいろいろな人に送る ・必要に応じて自分でiPadを取り出し、活用できる
保護者	・学校だけの活用を希望	・「今日の話題」から家でも活用を始める ・本人と一緒に使う	・活用の広がり、発声が大きくなったことを喜ばれる	・本人のためのiPadを購入することにする

③ 学校外での活用

- ・ 買い物学習ではiPadに表示した写真と同じ商品を探しだし、「Dcell Voice」を使ってレジでの対応ができた。
- ・ 現場実習では担任が離れていても自分からスタッフや他の利用者とコミュニケーションをとることができた。



修学旅行で店員さんと



現場実習で他の利用者さんと

- ・ 修学旅行では写真での記録、家庭へのメール、見学先でのコミュニケーションに活用した。
- ・ サマーキャンプや沖縄への家族旅行などにも持っていき、家族での活用が広がった。